

以輩行爲名

諸國定海人及山守部と見えて、此等の部の民を定賜て、其業々を奉仕るを、大山守命には、此部部を統領ることを任し賜ふなり。○中略さて大山守と申す御名は、海人部山部山守部を領せる中の一に就て負賜へるなり、御山守を守給ふ由には、非大は御名に就たる稱言なり、
〔古今著聞集九武勇〕右大將○源賴朝高麗國を責めし時の追討使に、あまの、式部大夫遠景むかひけり、大將家のきり物にて、次官藤内といはれし藤内は是也、

〔駿臺雜話三〕阿閉掃部

秀康卿越前に封せられ給ひし後阿閉掃部とて、武功の譽ありし者を、厚祿にて召抱られけり、

〔白石小島〕武家官位ノ事

大太郎、小太郎、孫二郎、彦三郎、又太郎、餘次郎、先次郎、後三郎、ナド聞エシハ、其比ニハ、太郎ヨリ次第ニカブヘテ、十郎ニ至リヌレバ、又トモ餘トモ加ヘヨビテ、太郎ガ子ヲ小太郎トイヒ、其子ヲ孫太郎トイヒ、又其子ヲ彦太郎トモイヒ、大トイヒ、先トイヒ、後トイフガ如クニ稱シタレバ、人ノ召名ト云モノモ、近代ノ如ク、其義ナキコトニハナカリシナリ、

〔日知錄二十三〕排行

兄弟二名、而用其一字者、世謂之排行、如德宗、德文、義符、義真之類、起自晉末、漢人所未有也、水經注、昔平侯王譚、不同王莽之政、子興生五子、並避亂隱居、光武即帝位、封爲五侯、元才北平侯、益才安喜侯、顯才滿陰侯、仲才新市侯、季才唐侯、是後人追撰妄說、東漢人、二名者亦少、

單名以偏旁爲排行、始見於劉琦、劉琮、此後應璩、應瑒、衛瓘、衛玠之流、踵之而出矣、陳球傳、二子瑀、瑒、瑒、若取偏旁、

又不當與父同也

今人兄弟行次、稱一爲大、不知始自何時、漢淮南厲王常謂上大兄、孝文帝行非第一也、

〔釋親考附輩行說〕梁武陵王紀聞、侯景陷臺城、湘東王將討之、謂僚佐曰、七官文士、豈能匡濟胡三省